



山岡けんじ

原発輸出反対!

STOP!



5月3日、安倍首相はトルコのエルドアン首相と会談し、日本の原発輸出を可能にする原子力協定を締結することを合意したと、各マスコミが報道しました。原発（原子炉4基、建設費2兆円）は黒海沿岸に建設することが予定され、建設に三菱重工業が絡んでいます。

福島第一原発事故から2年が経過し、未だに収束作業には手をこまねいているのが現状です。汚染水は溜まる一方でタンクからの汚染水漏れは後を絶ちません。冷却用の電源喪失事故もネズミとやらでたびたび発生させています。事故の収束に当たっている作業員の多くは、既に年間被爆線量限度に近づき、作業員が大量に不足しているとも言われています。日本政府がやることは、原発輸出より国内の収束作業や被害者への補償なのです。「舌の根も乾かぬうちに」とは、まさにこのことを指すのでしょ

う。ところでトルコは日本と同様、地震大国と言われ、これまで多くの犠牲者を出す大地震が発生しています。つまり、福島第一原発事故と同じ事故を繰り返すリスクが非常に高いといえます。テレビのインタビューでも、多くのトルコ国民は原発建設反対の意見を主張しています。トルコで第2のフクシマとなれば、誰が責任を取るのでしょうか？誰が保証金を払うのでしょうか？

JR東海労は、全ての原発再稼働はもちろん、輸出にも反対です。国内外の反原発・脱原発の人たちと共に闘っていきます。

事故の後始末すら出来ないのに何が輸出だ！
フクシマの収束作業・被害補償の方が先だ！

トルコに原発輸出へ

5月4日 静岡
震災後初 首脳会談で合意

【アンカラ共同】安倍首相は3日午後（日本時間同日夜）、トルコのエルドアン首相とアンカラの首相邸で会談した。日本の原発輸出を可能にする原子力協定を締結することで合意し、会談後に両政府が署名を交わし、東京電力福島第1原発事故後、官民連携による日本の原発輸出が初めて具体化する。両政府は、原発建設に際し日本に優先的な交渉権を与えることや防衛当局間の協力を定めた共同宣言を発表した。

安倍首相は原発輸出の原動力は、三菱重工業とアレバの両社だが、事故の影響を懸念し、交渉を一時中断する意向を示した。安倍首相は、原発輸出がトルコに大規模な投資を呼び寄せ、トルコが建設に力を入れることで、原子炉4基を建設する計画を推進する意向を示した。安倍首相は、原発輸出がトルコに大規模な投資を呼び寄せ、トルコが建設に力を入れることで、原子炉4基を建設する計画を推進する意向を示した。

両国関係を相互利益に基づく戦略的パートナーシップに高める
黒海沿岸シノップ原発プロジェクトに際し、日本に優先的な交渉権を付与。原子力の平和利用分野での新たな協力の構築
首脳間の頻繁な会談、両国外相の定期的な対話で協力を強化。防衛当局間の協力を促進
中東、東アジア地域の安定に取り組む
医療、農業、食品、インフラ整備、半田分野で協力

安倍首相は原発輸出の原動力は、三菱重工業とアレバの両社だが、事故の影響を懸念し、交渉を一時中断する意向を示した。安倍首相は、原発輸出がトルコに大規模な投資を呼び寄せ、トルコが建設に力を入れることで、原子炉4基を建設する計画を推進する意向を示した。

通過し政治面での協力を強化することで一致。日本とトルコの経済連携協定(EPA)交渉開始についても意見交換。トルコは日本と同様、2020年夏季五輪招致を目指しており、5月5日にバスタを戻すことなどで一致した。

11年3月の原発事故後、日本のメーカは各自で受注獲得を目指していた。ベトナムでは日本受注で両政府が合意したが、メーカが決まっていなかった。リニアでは11年7月に立地場所が原発受注に向けた優先交渉権を獲得。その後、両国の関係は改善され、首脳の間で協定が締結され、首上りレベルでの協定が締結された。フクシマの収束作業では東芝が優先交渉権を得ている。

5月4日『静岡新聞』